

東北・新潟 D & I (ダイバーシティ & インクルージョン) ネットワーク勉強会

はじめに

当センターでは、2020年度に「東北における女性活躍推進の実態と働く女性の意識調査」報告書を取り纏めた。その結果、東北圏（東北6県及び新潟県）は首都圏に比べ女性が働きやすい環境ではないことが明らかとなった。そうした状況を放置しておけば、より一層、東北圏は女性が働きづらい、活躍が難しい地域になってしまう恐れがある。そこで、東北圏企業の女性活躍推進に向けた取組みを促していくための勉強会を企画し、2021年度のプレ勉強会実施を経て、2022年度と2023年度に「東北・新潟女性応援ネットワーク勉強会」（年4回）を実施してきた。

今年度は“男女共に自分で考え実現する自律的なキャリア形成を支援し、ダイバーシティを推進する”をテーマに掲げ、女性社員のみならず、男性社員も対象とした「東北・新潟 D & I ネットワーク勉強会」（年4回）を実施した。

講義内容

第1回勉強会

これからのリーダー① 一部下が上司を育てる「コーチングアップ」ー

これからのリーダーには、多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することでイノベーションを生み出すことが求められている。そこで、今後求められるリーダーについて第1回と第2回にわたり講義を行った。

第1回は、今求められているリーダーシップスタイル、リーダーシップを発揮するための課題、上司の協力をうまく引き出し、自分が働きやすい環境にするためのコーチングアップについて講義した。リーダーシップは、「誰かが持っている優れたパーソナリティや能力」ではなく、「誰にでも開発できるもの」である。そのため、何をすることが組織や自分、部下にとって、最も効果があるかを考えて行動することが重要だと説明した。また、コーチングアップについては、相互信頼を基本とし、敬意を持って上司の力を引き出すことで成果を生み出すことから、上司との信頼を築くためのポイントについても説明した。

第2回勉強会

これからのリーダー② ー心理的安全性を高めるコミュニケーションー

多様な人材の活躍のためには、多様な意見を受け入れる組織風土を作らなければならない。そのためには、心理的安全性が重要であることを講義した。心理的安全性が高まることで、チームとしての学習意欲が高まり、成果や生産性の向上に繋がる。さらに、仕事を通したスキルアップや成長、自主性・主体性が高まりやすくなり、中長期により高い成果が得られることを説明した。

参加者感想 (抜粋)

- ・職場の生産性や効率性を高めるため、心理的安全性を高めるコミュニケーションが非常に大切だと感じた。
- ・面談を実施することがあるので、今後、活用できるスキルを習得することができた。

第3回勉強会

デュアルキャリア・カップルを増やすには？

自身のキャリア形成、または部下のキャリア形成のために、「共働き・共育て」世代の本音や意識、実情についての講義を行った。さらに、仕事と育児の両立に向けて先進的に取り組む「ダイキン工業株式会社(大阪市)」ならびに「株式会社ユーメディア(仙台市)」の具体的な事例を紹介した。

参加者感想(抜粋)

- ・子育て支援も大事だが“仕事と育児を両立しながらキャリアアップすることを支援”しているということが、とても素晴らしいと感じた。

第4回勉強会

「共働き・共育て」男性社員によるパネルディスカッション

職場におけるD&Iを推進するため、共働き・共育て世代の男性の変化に関する講義と、東北・新潟の企業で、実際に「共働き・共育て」を実践している男性社員3名によるパネルディスカッションを行った。仕事と家庭・育児を両立するうえで工夫していることや、仕事や家庭に対する思い等について意見交換を行った。そして、聴講者に向けて「共働き・共育て」が当たり前になる職場づくりや、共育て世代のマネジメント、自身のキャリアについて考えるヒントを提示した。

参加者感想(抜粋)

- ・パネリストの方々の業種、地域、家族構成が分かれていて、大変参考になった。
- ・リアルタイムで共働き・共育てをしている家族のあり様、意識や企業の取り組みを知ることができた。

第4回勉強会の様子



【第4回勉強会パネリスト】

- | | |
|---------------|---|
| (上段右) 坂井 俊介 氏 | 株式会社藤崎 経営企画部経営企画担当 |
| (下段左) 樋口 史樹 氏 | 株式会社有沢製作所 イノベーション推進本部
機能フィルム開発部 第2グループ チーム
リーダー |
| (下段右) 鈴木 竜也 氏 | 株式会社秋田銀行 システム部 主査 |

まとめ

いずれの回についても勉強会参加者からは講義、グループトークともに「参考になった」との高い評価を得ることができた。当センターとして引き続き、東北圏における女性活躍ならびにD & Iの更なる推進に寄与していきたい。